

2011年
5月2日
月曜日

災いと創造力

新海哲哉 教授（理論経済学）

人類が直面する危機は、大きく分けると二つの種類に分類できる。一つは人間がもたらす危機である。例えば、戦争や騒乱による危機である。この危機の源は、そのときの社会の仕組みへの人々の不満である。

また、今回の東日本大震災で起きた、東京電力の福島第一原子力発電所の放射線漏れ事故による危機である。その源は、過度の経済合理性追求による人間の科学技術への過信と、その限界の認識不足にある。

二つ目は、今回の東日本大震災や十七年前の阪神淡路大震災などの自然災害による危機である。この二つの危機は、いずれも既存の社会システムや生活・経済活動基盤を崩壊させ、多くの被災者たちにどうしようもない失望感、憤り、失業、二重ローンなどをもたらす。しかし、今回の東日本大震災で被災された人たちの

中から、苦難と家族や親しい友人たちを一瞬にしてその命を失った悲しみを抱きつつ、復興に向けた力強い取り組みが始まっている。確かに、災いは人々に大きな苦難と悲しみを与えるが、他方で、人々を復興へ向けて強くする。期せずして災いで崩壊した旧来の社会経済基盤から、多くの人々の命が奪われた中で、幸運にも生を得た人々は、「新しい社会経済基盤を構築しよう。」「この地域や街をこれからどうして行こう？」という、生と将来に向けた議論を始めざるを得なくなり、努力を始める。

の、旧い社会経済システムから恩恵を受けている人々が、若い不満を持つ人々が主張する「古いシステムの崩壊と新しいシステムの構築への改革」に反対するので、若くて意欲のある人々の意見が通らない。

災いがなくても、我々は旧い社会経済システムが機能不全を起こせば、「古いシステムの崩壊と新しいシステムの構築への改革」を受け入れなければならないが、なかなかその受け入れは困難である。

戦争や騒乱など、第一の人間がもたらす危機は、人間の憎しみとときには殺戮による大きな犠牲を人類と社会にもたらす。他方、自然災害による第二の危機もまた、一瞬にして既存の社会システムや生活・経済活動基盤を崩壊させ、家族や親しい人々の命を奪い人々に大きな苦難と悲しみを与える。しかし、その一方

で、その危機がなければ、受け入れられなかった「新しいシステムの構築への努力と歩み」をする希望と生きる力を、生き残った人々に与えるのである。